

ふりがな

さとう ふみか

氏 名

佐藤 文香

1. 学歴

1995 年 3 月 慶應義塾大学 環境情報学部 卒業
1995 年 4 月 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程 入学
1997 年 3 月 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程 修了
1997 年 4 月 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 博士課程 入学
2000 年 3 月 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 博士課程 単位取得退学

2. 職歴・研究歴

1998 年 4 月-2003 年 3 月 明治学院大学 国際学部 非常勤講師
2000 年 4 月-2003 年 3 月 日本学術振興会 特別研究員
2002 年 4 月-2003 年 3 月 成蹊大学 文学部 非常勤講師
2002 年 4 月-2003 年 3 月 武蔵大学 社会学部 非常勤講師
2003 年 4 月-2005 年 3 月 中部大学 人文学部 専任講師
2004 年 4 月-2004 年 9 月 愛知大学 文学部 非常勤講師
2004 年 9 月-2005 年 3 月 金城学院大学 生活環境学部 非常勤講師
2005 年 4 月-2007 年 3 月 一橋大学大学院 社会学研究科 助教授
2011 年 8 月-2012 年 6 月 ハーバード・イェンチン研究所 客員研究員
2007 年 4 月-2015 年 3 月 一橋大学大学院 社会学研究科 准教授（名称変更）
2015 年 4 月- 一橋大学大学院 社会学研究科 教授

3. 学内教育活動

（A）主な担当講義名

（a）学部学生向け

ジェンダーと社会

ジェンダー論

（b）大学院

平和とジェンダー／社会学

社会科学のなかのジェンダー

（B）ゼミナール

社会研究入門ゼミ

学部後期ゼミナール

大学院ゼミナール

4. 主な研究テーマ

軍事・戦争とジェンダーの社会学

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

- ・우에노 치즈코・아라라기 신조・히라이 가즈오(上野千鶴子・蘭信三・平井和子) 編、徐在吉訳、『전쟁과 성폭력의 비교사 가려진 피해자들의 역사를 말하다 (戦争と性暴力の比較史へ —隠された被害者を語る)』(共著), 어문학사 (語文社), 2020.8 (分担部分: 11 章「전쟁과 성폭력: 이야기의 정통성을 둘러싸고 (戦争と性暴力 —語りの正統性をめぐって)」, 387-415 頁)
- ・佐藤文香監修『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた —あなたがあなたらしくいられるための29問』(監修), 明石書店, 2019.
- ・上野千鶴子・蘭信三・平井和子編『戦争と性暴力の比較史へ向けて』(共著), 岩波書店, 2018. (分担部分: 11 章「戦争と性暴力 —語りの正統性をめぐって」, 315-340 頁)
- ・佐藤文香・伊藤るり編『ジェンダー研究を継承する』(共編著), 人文書院, 2017.
- ・伊藤公雄・牟田和恵編『全訂新版 ジェンダーで学ぶ社会学』(共著), 世界思想社, 2015. (分担執筆: 13 章「闘う —戦争・軍隊とフェミニズム」, 204-217 頁)
- ・福間良明・野上元・蘭信三・石原俊編『戦争社会学の構想 —制度・体験・メディア』(共著), 勉誠出版, 2013. (分担執筆: 9 章「ジェンダーの視点から見る戦争・軍隊の社会学」, 233-269 頁)
- ・木本喜美子・貴堂嘉之編『ジェンダーと社会 —男性史・軍隊・セクシュアリティ』(共著), 旬報社, 2010. (分担執筆: 6 章「ジェンダー化される『ポストモダンの軍隊』 —『新しさ』をめぐり動員される女性性／男性性」, 141-169 頁)
- ・Setsu Shigematsu and Keith L. Camacho (eds.) Militarized Currents: Toward a Decolonized Future in Asia and the Pacific (共著), University of Minnesota Press, 2010. (分担執筆: 11 章“Why Have the Japanese Self-Defense Forces Included Women?: The State’s ‘Nonfeminist Reasons’”, 251-276 頁)
- ・天野正子・伊藤公雄・伊藤るり・井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『新編 日本のフェミニズム 3 性役割』(共著), 岩波書店, 2009. (分担執筆: 「軍事組織とジェンダーより (「結論」『軍事組織とジェンダー』2004 抄録)」, 275-285 頁)
- ・江原由美子・山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』(共著), 有斐閣, 2006. (分担執筆: 13 章特論「軍事化とジェンダー」, 271-274 頁)
- ・『軍事組織とジェンダー —自衛隊の女性たち』, 慶應義塾大学出版会, 2004.
- ・舘かおる・秋林こずえ編『シリーズ 国際ジェンダー研究 3 フェミニズムで探る軍事化と国際政治』(共著), 御茶の水書房, 2004. (分担執筆: Ⅲコメント「なぜ軍隊内部の女性に注目するか コメント」, 96-112 頁)
- ・香川敏幸・小島朋之編『総合政策学の最先端Ⅳ 新世代研究者による挑戦』(共著), 慶應義塾大学出版会, 2003. (分担執筆: 8 章「軍事組織とジェンダー」, 166-187 頁)

(b) 論文

- ・“Trends in Gender Studies within Japanese Sociology” International Sociology Reviews 36, International Sociological Association, 1-12 頁, 2021.3 (DOI: 10.1177/02685809211005353)
- ・“The “Benevolent” Japan Self-Defense Forces and Their Utilization of Women” (co-author) Hitotsubashi Journal of Social Studies 51(1), 1-23 頁, Hitotsubashi University, 2020.1
- ・「沖縄で在日米軍と共に生きる —基地従業員女性の経験の両義性に注目して」(共著) 『ジェンダー研究』 通巻 22 号, 93-109 頁, お茶の水女子大学ジェンダー研究所, 2019. 7

- ・“Living with the US Military: The Women Working on Okinawan Bases” (co-author) Hitotsubashi Journal of Social Studies 50(1), 1-14 頁, Hitotsubashi University, 2019.1
- ・「軍事化される『平等』と『多様性』 —米軍を手がかりとして」『ジェンダー史学』 12 号, 37-50 頁, ジェンダー史学会, 2016. 12
- ＊「国際平和活動におけるジェンダー主流化 —軍のジェンダー・アドバイザーの機能に焦点を当てて」(共著) 『国際ジェンダー学会誌』 13 号, 79-96 頁, 国際ジェンダー学会, 2015. 12
- ・「軍事化とジェンダー (再録)」『社会運動』 419 号, 58-64 頁, 市民セクター政策機構, 2015. 7
- ・「軍事化とジェンダー」『ジェンダー史学』 10 号, 33-37 頁, ジェンダー史学会, 2014. 10
- ＊「여성과 자위대 —카무플라주하는 여성의 역할과 젠더주류화 (女性と自衛隊 —カモフラージュする女性の役割とジェンダー主流化)」(共著・兪炳完訳), 『일본비평 (日本批評)』11 号, 82-109 頁, 서울대학교 일본연구소 (ソウル大学日本研究所), 2014. 8
- ・“A Camouflaged Military: Japan's Self-Defense Forces and Globalized Gender Mainstreaming” The Asia-Pacific Journal 10-36-3, 2012.9
- ＊「韓国女性軍人のプライドと困難 —男性中心的な軍隊規範への順応に注目して」(共著) 『国際ジェンダー学会誌』 9 号, 49-67 頁, 国際ジェンダー学会, 2012. 2
- ・「男性研究の新動向 —軍事領域の男性研究に向けて」『社会学評論』 第 61 巻第 2 号, 186-195 頁, 日本社会学会, 2010. 9
- ・「女性兵士をとりまく困難」『女性学』 13 号, 8-18 頁, 日本女性学会, 2006. 3
- ・「自衛隊をめぐるジェンダー表象 —『応援する女』と『守る女』の間で」『イメージ&ジェンダー』 5 号, 70-82 頁, 彩樹社, 2005. 3
- ＊「再考 自衛隊と／の女性 —『軍隊の女性』を『軍隊と女性』に包摂して」『国際ジェンダー学会誌』 1 号, 29-50 頁, 国際ジェンダー学会, 2003. 9
- ＊「ジェンダー化された軍事化」『女性学』 9 号, 47-65 頁, 日本女性学会, 2002. 1
- ・「『軍隊と／の女性』論のために —日米の映画における防衛／軍事組織の女性像の変遷から」『女性学年報』 21 号, 134-150 頁, 日本女性学研究会, 2000. 11
- ＊「自衛隊におけるジェンダー —『防衛白書』と自衛官募集ポスターの表象分析から」『Sociology Today』 10 号, 60-71 頁, お茶の水社会学研究会, 2000. 2
- ＊「日米の女性兵士をめぐるジェンダー・イデオロギーの変遷 —防衛／軍事組織の人事政策を中心に」『女性学』 7 号, 132-152 頁, 日本女性学会, 1999. 12
- ・「アメリカ女性兵士をめぐる言説の分析 —『G. I. ジェーン』から見えてくるもの」『女性学年報』 19 号, 1-14 頁, 日本女性学研究会, 1998. 11

(c) 翻訳

- ・『＜家父長制＞は無敵じゃない —日常からさぐるフェミニストの国際政治』(原著: Cynthia Enloe『The Big Push: Exposing and Challenging the Persistence of Patriarchy』, Myriad Editions, Oxford, 2017 年, English), 岩波書店, 2020.
- ・『兵士とセックス —第二次世界大戦下のフランスで米兵は何をしたのか?』(原著: Mary Louise Roberts, *What Soldiers Do: Sex and the American GI in World War II France*, Chicago University Press, Chicago, 2013, English), 明石書店, 2015.
- ・「軍事化と戦争の根源的要因としてのジェンダー」(原著: Cynthia Cockburn“Gender Is a Cause of Militarization and War”, unpublished, 2009 年, 英語), 木本喜美子・貴堂嘉之編『ジェンダーと社会 —男性史・軍隊・セクシュアリティ—』, 旬報社, 2010.

- ・『策略 —女性を軍事化する国際政治』（原著：Cynthia Enloe, *Maneuvers: The International Politics of Militarizing Women's Lives*, University of California Press, Berkeley, 2000, 英語）岩波書店, 2006.
- ・「軍事化とジェンダー —女性の分断を超えて」（原著：Cynthia Enloe, “Conclusion: Decisions, Decisions, Decisions (in her *Maneuvers: The International Politics of Militarizing Women's Lives*)”, University of California Press, Berkeley, 2000, 英語）『思想』 通巻 947 号, 岩波書店, 2003. 3

（d）その他

〔研究・調査報告書〕

- ・一橋大学大学院社会学研究科ジェンダー社会科学研究センター編『一橋大学大学院社会学研究科ジェンダー社会科学研究センター 第一期活動報告書（2007 年度～2011 年度）』, 研究科内センター成果報告書, 2012.3
- ・一橋大学 GenEP プロジェクト編『「一橋大学における男女共同参画社会実現に向けた全学的教育プログラムの策定」プロジェクト報告書』, 平成 17 年度学長裁量経費プロジェクト報告書, 2006.3

〔書評・新刊紹介〕

- ・（新刊紹介）メアリー・ルイズ・ロバーツ著『兵士とセックス —第二次世界大戦下のフランスで米兵は何をしたのか？』（明石書店, 2015.8）, 『女性情報』 通巻 358 号, 2016.1
- ・（書評）茶園敏美著『パンパンとは誰なのか —キャッチという占領期の性暴力とGIとの親密性』（インパクト出版会, 2014.9）, 『図書新聞』 通巻 3195 号, 2015.2.21
- ・（書評）Mary Louise Roberts 著 *What Soldiers Do: Sex and the American GI in World War II France* (University of Chicago Press, 2013) , 『国際ジェンダー学会誌』 通巻 12 号, 2014.12
- ・（書評）Brooke A. Ackerly, Maria Stern, and Jacqui True eds. 著 *Feminist Methodologies for International Relations* (Cambridge University Press, 2006) , 『国際ジェンダー学会誌』 通巻 10 号, 2012.12
- ・（書評）Jane L. Parpart and Marysia Zalewski eds. 著 *Rethinking the Man Question: Sex, Gender and Violence in International Relations* (Zed Books, 2008) , 『国際ジェンダー学会誌』 通巻 9 号, 2012.2
- ・（新刊紹介）木本喜美子・貴堂嘉之編著『ジェンダーと社会 —男性史・軍隊・セクシュアリティ』（旬報社, 2010.6）, 『国際ジェンダー学会誌』 通巻 8 号, 2010.12
- ・（書評）Setsu Shigematsu and Keith L. Camacho eds. 著 *Militarized Currents: Toward a Decolonized Future in Asia and the Pacific* (University of Minnesota Press, 2010) , 『国際ジェンダー学会誌』 通巻 8 号, 2010.12
- ・（書評）Sandra Whitworth 著 *Men, Militarism and UN Peacekeeping: A Gendered Analysis* (Lynne Rienner Publishers, 2004) , 『国際ジェンダー学会誌』 通巻 7 号, 2009.12
- ・（書評）Louise Olsson and Torunn L. Tryggestad eds. 著 *Women and International Peacekeeping* (Frank Cass Publishers, 2000) , 『国際ジェンダー学会誌』 通巻 6 号, 2008.12
- ・（新刊紹介）サビーネ・フリーシュトゥック著『不安な兵士たち —ニッポン自衛隊研究』（原書房, 2008）, 『Cutting-Edge』 通巻 32 号, 2008.9.20
- ・（書評）Sabine Frühstück 著 *Uneasy Warriors: Gender, Memory, and Popular Culture in the Japanese Army* (University of California Press, 2007) , 『Social Science Japan Journal』 第 11 巻第 1 号, 2008
- ・（新刊紹介）佐藤文香著『軍事組織とジェンダー —自衛隊の女性たち』（慶応義塾大学出版会, 2004.12）, 『中部大学国際人間学研究所・アリーナ』 通巻 2 号, 2005.3
- ・（書評）サンドラ・ウィットワース著『国際ジェンダー関係論 —批判理論的政治経済学に向けて』（藤原書店, 2000.1）, 『中部大学国際人間学研究所・アリーナ』 通巻 1 号, 2004.5

〔辞書・辞典等の項目執筆〕

- ・現代地政学事典編集委員会編『現代地政学事典』, 丸善出版, 2020.1 (執筆項目:「戦争と性暴力」, 492-493 頁)
- ・大澤真幸・吉見俊哉・鷺田清一編『現代社会学事典』, 弘文堂, 2012.12 (執筆項目:「女性兵士」, 678 頁)
- ・野上元・福岡良明編『戦争社会学ブックガイド ―現代世界を読み解く 132 冊』, 創元社, 2012.3 (執筆項目:「戦争とジェンダー／セクシュアリティ」, 「女性動員から女性兵士へ」, 105-107、126-128 頁)
- ・日本女性学会ジェンダー研究会編『Q&A 男女共同参画／ジェンダーフリー・バッシング ―バックラッシュへの徹底反論』, 明石書店, 2006.6 (執筆項目:「Q31 DV・セクハラ対策、男女共同参画センターの設置、保育所の増設、男女平等教育の推進などの事業に、税金を使いすぎているって、本当ですか?」, 145-150 頁)
- ・猪口孝・田中明彦・恒川恵市・薬師寺泰蔵・山内昌之編『国際政治事典』, 弘文堂, 2005.12 (執筆項目:「軍隊と女性」, 「女性の不可視性」, 「男性性／女性性」, 283、474、606 頁)
- ・井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『女性学事典』, 岩波書店, 2002.6 (執筆項目:「女性自衛官」, 「女性兵士問題」, 225、244-245 頁)
- ・『AERAMook ジェンダーがわかる』, 朝日新聞社, 2002.4 (執筆項目:「ジェンダーを理解するためのキーワード 50」中, 「ジェンダー総論」, 「グローバリゼーション」, 「労働」, 「結婚」, 「身体」, 146-150 頁)

〔一般雑誌等への論文の掲載〕

- ・「ジェンダー平等な社会のために」『學燈』, 丸善出版, 2020.6
- ・『戦争と性暴力の比較史へ向けて』刊行記念シンポジウム『コスモポリス』, 上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科国際関係論専攻, 2020.3
- ・「女性兵士は男女平等の象徴か?」『世界思想』, 世界思想社, 2019.4
- ・『戦争と性暴力の比較史へ向けて』刊行記念シンポジウム『立命館言語文化研究』, 立命館大学国際言語文化研究所, 2019.2
- ・『「生きづらさ」をめぐる争いを超えて 他者への共感はいかに育めるのか』『Journalism』, 朝日新聞社, 2018.8
- ・「特集『女性活用』と女性の動員 ―特集にあたって」『国際ジェンダー学会誌』, 国際ジェンダー学会, 2016.12
- ・「軍事化に取り込まれる『女性活躍』」『わたちの 21 世紀』, アジア女性資料センター, 2016.6
- ・「資料報告 アメリカにおける軍隊の女性の今 ―軍隊の女性に関する会議に参加して」『国際ジェンダー学会誌』, 国際ジェンダー学会, 2013.12
- ・「自衛隊は 21 世紀の軍隊たりえるか ―セクハラ裁判からみえてくるもの」『三田評論』, 慶應義塾大学出版会, 2009.5
- ・『「軍事組織とジェンダー」をめぐる ―女性自衛官人権裁判のアンビバレンツ』『インパクション』, インパクト出版会, 2008.1
- ・「フェミニズムに苛立つ『あなた』へ ―『怒り』はどこへ向かうべきなのか」『論座』, 朝日新聞社, 2006.4
- ・『正義』『発展』のシンボルとしての女性自衛官 ―イラク派遣の前夜に寄せて』『インパクション』, インパクト出版会, 2004.1
- ・「出会ってこなかった女性たちのために」『わたちの 21 世紀』, アジア女性資料センター, 2003.1
- ・「軍隊と女性 ―『男になった女』でもなく、『フェミニズムの英雄』でもなく」『季刊 女も男も ―自立・平等』, 労働教育センター, 2002.10
- ・「シンポジウム概要 ― 国民国家の明日は? (共著: 山本純一)」『KEIOSFC REVIEW』, 慶應義塾大学湘南藤沢学会, 1999.10

B. 本研究科着任後の研究活動 (着任 2005 年)

(a) 国内外学会発表

- ・『『不安な兵士』のアイデンティティ構築 —自衛隊と地域社会』, 第 92 回 日本社会学会, 2019.10, 東京女子大学
- ・「ジェンダーと政治研究会 企画 安全保障とジェンダー —フェミニズム・批判理論・ジェンダー主流化 (討論者)」, 日本政治学会, 2018.10, 関西大学
- ・「男性性と軍隊・戦争の関係を再考する —『軍事的男性性』概念の予備的考察に向けて」, 国際ジェンダー学会, 2018.9, 聖心女子大学
- ・「『男性自衛官である』という経験—アイデンティティ構築における「他者」に注目して」, 戦争社会学研究会, 2018.4, 東京大学
- ・“The 'Benevolent' Japan Self Defense Forces and Their Utilization of Women”, The Annual Conference of Association for Asian Studies, 2018.3, Washington Marriott Wardman Park
- ・「『戦わぬ軍事組織』における男性性の構築 —男性自衛官のライフストーリーから」, 国際ジェンダー学会, 2017.9, 明星大学
- ・「日本軍『慰安婦』問題とオーラル・ヒストリー研究の／への挑戦 コメント」, 第 14 回日本オーラル・ヒストリー学会大会 (コメンテーター), 2016.9, 一橋大学
- * 「兵士とセックス —普遍性と特殊性」, シンポジウム「戦争と性暴力の比較史へ向けて —強姦、売買春から恋愛まで」, 2016.3, 立命館大学
- * 「軍事化される『平等』と『多様性』 —日米の軍隊を中心に」, ジェンダー史学会 (パネリスト), 2015.12, 大妻女子大学
- ・“A Camouflaged Military: The Japanese Self-Defense Forces and Globalized Gender Mainstreaming”, Harvard-Yenching Institute presentation sponsored by the Harvard-Yenching Institute and the Reischauer Institute of Japanese Studies, 2012.2, Harvard-Yenching Institute
- ・「ジェンダー化される『ポストモダンの軍隊』」, 国際ジェンダー学会, 2009.9, 福岡女子大学
- ・「ジェンダーとグローバリゼーション・軍事化 コメント」, 同時代史学会 第 22 回研究会 (コメンテーター), 2009.7, 立教大学
- ・「『ジェンダー』を語り合う —学ぶ立場から、教える立場から」, 国際ジェンダー学会 (ワークショップ), 2008.9, 立教大学
- * “Incorporation of Women in the Japanese Self-Defense Forces: Is This Feminist Achievement?”, Workshop for the Academic Frontier Project: ‘Social Change in Asia and Pacific’, International Studies of Our New Era: Immigrants, Refugees and Women (panelist), 2005.7, Meiji Gakuin University
- * 「兵士でありかつ女性である女性兵士をとりまく実情の批判的検討」, 日本女性学会 (パネリスト), 2005.6, 横浜国立大学

(b) 国内研究プロジェクト

- ・科学研究費補助金 (基盤研究 C), 「戦後日本の軍事組織の男性と「軍事的男性性」」 (研究代表者), 日本学術振興会, 2015.4-2021.3
- ・科学研究費補助金 (基盤研究 C), 「大規模災害時等における自衛官家族の社会的支援に関する総合的研究」 (研究分担者), 日本学術振興会, 2014.4-2017.3
- ・科学研究費補助金 (基盤研究 C), 「国連安保理決議 1325 実施のための各国国内行動計画の成果並びに日本の課題」 (研究協力者), 日本学術振興会, 2013.4-2016.3
- ・科学研究費補助金 (若手研究 B), 「日米軍事組織におけるジェンダー政策の比較研究」 (研究代表者), 日本学術振興会, 2011.4-2015.3
- ・「日本と韓国において軍事組織構成員として生きるという経験 —世代間の継承と断絶に注目して」 (研究代表

者), 一橋大学萌芽的研究支援助成, 2013.9-2014.3

- ・科学研究費補助金(若手研究B), 「平和構築とジェンダー ―フェミニスト国際関係論からの考察」(研究代表者), 日本学術振興会, 2007.4-2011.3

(c) 国際研究プロジェクト

- ・Harvard-Yenching Institute Visiting Scholars Program, 「Comparative Studies in the Japan Self-Defense Forces and the U.S. Military from a Gender Perspective」, Harvard-Yenching Institute, 2011.9-2012.7

(d) 研究会、シンポ等のオーガナイズ

- 「日本女性学会 2019 年大会」, 日本女性学会主催, 一橋大学, 2019.6.15-2019.6.16, 大会実行委員長
- 「CGraSS 公開レクチャー・シリーズ 第 47 回 カール・ゲイブリエルソン講演『『サムライファンタジー』と『子供扱い』 ―日本文化を利用した在日米兵の軍事的男性性』」, 一橋大学ジェンダー社会科学研究センター主催, 一橋大学, 2019.7.3
- 「CGraSS 公開レクチャー・シリーズ 第 45 回 平山亮講演「うろたえる男たち ―女たちの告発に、私たちはいかに応えてきたか／応えるべきか」」, 一橋大学ジェンダー社会科学研究センター主催, 一橋大学, 2019.1.25
- 「CGraSS 公開レクチャー・シリーズ 第 42 回 中村江里講演「感情を管理される日本軍兵士たち ―軍事化されたマスキュリティと戦争神経症」」, 一橋大学ジェンダー社会科学研究センター主催, 一橋大学, 2018.6
- 「『戦争と性暴力の比較史へ向けて』 刊行記念シンポジウム」, 『戦争と性暴力の比較史へ向けて』刊行記念シンポジウム実行委員会主催, 上智大学, 2018.5.13
- ・「先端課題研究 14 ジェンダー研究の過去・現在・未来 ―女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に」(研究代表者), 一橋大学大学院 社会学研究科, 2014.4-2017.3
- 「国際ジェンダー学会 2016 年大会／一橋大学 CGraSS 創設 10 周年記念シンポジウム 大学におけるジェンダー研究センターの来し方・行く末を考える」, 国際ジェンダー学会主催, 一橋大学ジェンダー社会科学研究センター共催, 一橋大学, 2016.9.10, 大会実行委員長
- 「CGraSS 公開レクチャー・シリーズ 第 35 回 多賀太講演「錯綜する〈男らしさ〉のポリティクス ―プロ・フェミニスト運動の可能性と課題」」, 一橋大学ジェンダー社会科学研究センター主催, 一橋大学, 2016.6.17
- 「国際ジェンダー学会 2015 年大会シンポジウム 『女性活用』と女性の動員」, 国際ジェンダー学会主催, 東京女子大学, 2015.9.6
- 「CGraSS 公開レクチャー・シリーズ 第 34 回 上野千鶴子講演「何を怖れる ―フェミニズムを生きた女たち」」, 一橋大学ジェンダー社会科学研究センター主催, 一橋大学, 2015.10.23
- 「CGraSS 公開レクチャー・シリーズ 第 28 回 平井和子・茶園敏美講演「日本占領と性 ―性暴力、売買春から親密な関係まで」」, 一橋大学ジェンダー社会科学研究センター主催, 一橋大学, 2014.11.21
- 「CGraSS 公開レクチャー・シリーズ 第 24 回 シンシア・エンロー講演「フェミニスト魂を捨てずに、研究者としてのキャリアを追求できるか?」」, 一橋大学ジェンダー社会科学研究センター主催, 一橋大学, 2013.12.9
- 「CGraSS 公開レクチャー・シリーズ 第 26 回 木本喜美子講演「〈家族と企業社会〉をジェンダーでつなぐ」」, 一橋大学ジェンダー社会科学研究センター主催, 一橋大学, 2014.2.27
- ・「先端課題研究 7 日常実践／方法としてのジェンダー」(研究分担者), 一橋大学大学院 社会学研究科, 2006.4-2009.3

C. 受賞

6. 学内行政

(B) 学内委員会

- ・研究推進委員 2009-10 年度
- ・教職課程専門委員 2013-14 年度
- ・人事計画策定委員 2013-15 年度、2017-20 年度
- ・附属図書館委員 2014-15 年度
- ・機関リポジトリ運営会議 2015-16 年度
- ・入試管理委員 2005・07・09 年度
- ・入試電算委員 2018-19 年度
- ・大学院入試幹事 2009・10・13・14・20 年度

ジェンダー社会科学研究センター 共同推進者 2007-20 年度

財務・総務部門総括 2010 年度、2013-14 年度、2017-20 年度、研究部門総括 2011-12 年度

代表 2015-16 年度

7. 学外活動

(a) 他大学非常勤講師など

- 1998 年 04 月～2003 年 03 月 明治学院大学国際学部 非常勤講師
- 2002 年 04 月～2003 年 03 月 成蹊大学文学部 非常勤講師
- 2002 年 04 月～2003 年 03 月 武蔵大学社会学部 非常勤講師
- 2004 年 04 月～2004 年 09 月 愛知大学文学部 非常勤講師
- 2004 年 09 月～2005 年 03 月 金城学院大学生生活環境学部 非常勤講師

(b) 所属学会および学術活動

日本社会学会 編集委員 2018 年度～2021 年度

日本女性学会 幹事 2004 年度～2008 年度、2018 年度～2022 年度

国際ジェンダー学会 評議員 2009 年度～2021 年度、編集委員 2010 年度～2011 年度、理事 2013 年度～2019 年度

The International Studies Association

(c) 公開講座・市民講座

- ・「フェミニズムが変えたこと、変えられなかったこと、そしてこれから変えること（第二部 パネルディスカッション コーディネーター）」、立教大学ジェンダーフォーラム, 2020.9, zoom
- ・「ジェンダーについて女性税理士が真剣に考えてみる」、全国女性税理士連盟 制度部 女性活躍推進特別委員会共催 勉強会, 2019.11, 東京税理士会館
- ・「フェミニズムはどこからきたのか」、シスターフッド —これからのフェミニズムを考える, 2018.7, LOFT9 Shibuya
- ・「銃後からフロントへ —女性活躍時代の自衛隊」、シンポジウム「こうして戦争は始まる —孫世代が出会う『銃後の女たち』」(パネリスト), 2017.11, 上智大学

- ・「利用される女性？加担する女性？ —ジェンダーの視点から軍隊・戦争を考える」, 九条研究会, 2016.6, 一橋大学
- ・「『軍事組織とジェンダー』を考える」, 女性自衛官の人権裁判を支援する会（講演）, 2008.9, 北海道立道民活動センター
- ・「ジェンダーの視点から軍事化を考える」, 沖縄と連帯するかながわ女性の会（講演）, 2008.1, かながわ県民センター
- ・「なぜ軍部の女性たちに注目するのか?」, IGS第12回夜間セミナー「ミリタリズムとジェンダー」（コメンテーター）, 2003.2, お茶の水女子大学
- ・「自衛隊の女性」, シンポジウム「女、戦争、暴力」（パネリスト）, 2002.11, 美学校
- ・「自衛隊とジェンダー」, 国際女性学会（特別講演）, 2002.9, 東京ウィメンズプラザ

（d）高校生向け出張講義・模擬講義

- ・「性の多様性について考えよう」, オープンキャンパス模擬授業, 2018.8, 一橋大学
- ・「ジェンダーの視点から軍隊・戦争を考える」, 模擬授業, 2014.10, 立川高校
- ・「ジェンダーの視点から軍事化を考える」, オープンキャンパス模擬授業, 2010.8, 一橋大学

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

外務省, 女性・平和・安全保障に関する行動計画評価委員, 2016.4-2021.3

日本学術会議, 上席学術調査員, 2006.9-2006.11

財団法人 社会経済生産性本部, メディア研究会委員, 1998.9-2002.3

9. 一般的言論活動

- ・“Japan’s soldiers are greying. Time to draft robots?: Recruiting more women might help, too” The Economist, The Economist Group, 2020.6.27
- ・「ジェンダーのステレオタイプをこえてゆけ! Gender doesn’t matter!」『日経 doors』, 日経 BP 社, 2020.5
- ・「2020 年女性幹部 30% 達成遠く」『東京新聞』, 中日新聞東京本社, 2020.3.5 朝刊
- ・「変わりゆく女性 北京会議 25 年③ ジェンダー平等 学ぶ若者」『読売新聞』, 読売新聞社, 2020.2.27 朝刊
- ・「LGBT 支える学舎に —一橋大、OB と講座 学内に相談窓口も」『毎日新聞』, 毎日新聞社, 2019.9.16 朝刊
- ・「ジェンダー考えてみた —足かけ2年『議論きっかけに』」『東京新聞』, 中日新聞東京本社, 2019.8.29 朝刊
- ・「ジェンダー論を学ぶことは『優しさ』を身につけることだった。『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』一橋大学学生たちの気づき」『wezzzy』, サイゾー, 2019.8.20
- ・「ジェンダーのなぜお答えします —専攻の一橋大生出版」『朝日新聞』, 朝日新聞社, 2019.8.16 夕刊
- ・「『ジェンダー』考えてみた —一橋大ゼミ生らが書籍出版」『東京新聞』, 中日新聞東京本社, 2019.7.24 朝刊
- ・「Dear Girls 男女共同参画 20 年④女性自衛官」『朝日新聞』, 朝日新聞社, 2019.7.3 朝刊
- ・「ジェンダー考えよう —一橋大ゼミ生たちが執筆・出版」『毎日新聞』, 毎日新聞社, 2019.6.25 夕刊
- ・「くらし解説『女性自衛官 活躍広がる背景は?』」『NHK 解説アーカイブス』, 日本放送協会, 2018.11.8
- ・「焦点 自衛隊に迫る『静かな有事』、少子化で採用難」『ロイター』, トムソン・ロイター, 2018.9.19
- ・“Aging Japan: Military recruiters struggle as applicant pool dries up” Reuters, Thomson Reuters, 2018.9.19
- ・「このひと 佐藤文香さん」『We Learn』, 公益財団法人 日本女性学習財団, 2018.9
- ・「女性登用 組織も変えよ」『朝日新聞』, 朝日新聞社, 2018.4.24 朝刊
- ・「いま読むジェンダー研究史」『朝日新聞』, 朝日新聞社, 2018.3.9 朝刊

- ・「変わる安全保障 女性登用、自衛隊は」『朝日新聞』，朝日新聞社，2016. 5. 11 朝刊
- ・「『女性活躍』という名の軍事登用」『朝日新聞』，朝日新聞社，2016. 4. 27 夕刊
- ・「戦争と性暴力 『比較史』の視点 ―京都でシンポ、各国の状況考える」『朝日新聞』，朝日新聞社，2016. 4. 13 夕刊
- ・「女性 戦闘機パイロットに ―空自が登用方針」『読売新聞』，読売新聞社，2015. 11. 11 夕刊
- ・「世間の戦争 第1次世界大戦から100年3 『戦え働け』女性に非日常の高揚」『朝日新聞』，朝日新聞社，2014. 8. 19 朝刊
- ・「女性自衛官 道開く ―活躍の場 なお限定的」『朝日新聞』，朝日新聞社，2013. 5. 14 夕刊
- ・「特集 基地・軍隊と女性 ―軍隊の中の女性たち」『ふえみん』，婦人民主クラブ，2008. 8. 15
- ・「軍隊の論理 揺らぐ人権」『朝日新聞』，朝日新聞社，2007. 12. 27 朝刊
- ・「男女平等 賃金や昇進 格差依然と」『北海道新聞』，北海道新聞社，2007. 3. 21 朝刊
- ・「岐路のフェミニズム ―雇用不安 若年男性に疎外感」『北海道新聞』，北海道新聞社，2006. 8. 24 夕刊
- ・「『戦場の男女平等』問う」『北海道新聞』，北海道新聞社，2005. 12. 4 朝刊
- ・「自衛隊での女性の存在とは」『朝日新聞』，朝日新聞社，2005. 2. 15 夕刊
- ・「イラク派遣と家族 ―軍人の妻を支援する精巧なポリティクス」『中日新聞』，中日新聞社，2005. 3. 2 夕刊
- ・「私は女性自衛官」『朝日新聞』，朝日新聞社，2004. 6. 21 夕刊
- ・「女性自衛官研究で女性学研究国際奨励賞を受賞」『読売新聞』，読売新聞社，2002. 6. 25 朝刊